



復興を成し遂げ、次世代へ

新しい年の始めにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。町民皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。

東日本大震災から四年九か月が経過し、五度目の新年を迎えました。この間の歳月には、高台に移転された皆様や、災害公営住宅への入居をされた皆様もおられると思いますが、仮設住宅などにお住まいの皆様方には、まだまだ不安な日々の繰り返しではなかったかと、ご推察をいたしております。

さて、昨年は、志津川町と歌津町が合併して十周年を迎えた



南三陸町長
佐藤 仁

年でありました。振り返れば、平成十九年度に策定しました長期総合計画に定める基本理念の実現に向け、主力を傾注して参った矢先に東日本大震災の発生により、我々の目標は復旧・復興へと変化いたしました。

私たちは大変な、そして苦しい日々を乗り越え、町は着実に復興へと進んでおります。

入谷、柘沢、名志地区には災害公営住宅が完成し、防災集団移転事業については二十地区二十八団地の内、十六地区の二十団地が完成いたしました。また、戸倉小学校、そして南三陸病院と総合ケアセンター南三陸も完

成いたしました。本年度中には柘沢地区、伊里前地区、清水地区、戸倉団地、志津川地区の一部などの防災集団移転促進事業が完成します。南三陸町地方卸売市場の完成も間近となり、復興の状況がまさに目に見える形で本格化してまいりました。

現在のまちづくりは、まさに未来への礎であります。我々は東日本大震災という未曾有の災害から復興を成し遂げ、次世代に継をうけないかなければなりません。地方創生や人口減少の問題も取り沙汰されており、誇れる町になるよう、決して屈せず、立ち止まることなく、全身全霊を傾注し、町政運営にあたってまいります。

今後、被災された町民の方々の住まいの再建にしっかりと対応できるよう、必要な施策を積極的に推し進め、安心して暮らすための安全なまちづくりの実現のため、町民の皆様とともに全力で取り組んでまいります。ことを心からお祈り申し上げます。

結びに、平成二十八年が、町民の皆様にとりまして輝かしい未来への幕開けの年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。



南三陸町会議長
星 喜美男

安全・安心なまちづくりを目指し

新年、明けましておめでとうございます。

早いもので、あの東日本大震災から四年九か月が経過し、五度目の新年を迎えることとなりました。

被災にあつた多くの町民の方々は、未だ応急仮設住宅や、みなし仮設住宅での生活を余儀なくされており、謹んで議会を代表して挨拶を申し上げます。

町民皆様におかれましては、日ごろから議会活動に対し、温かいご支援とご理解をいただ

ておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

さて、議会は、平成二十五年十月に町民皆様からご信任をいただいたことからこれまで二年二か月間、議会の役割である議事・意思決定機関としての機能を果たすとともに、町政の進展と議会の円滑な運営、活性化に精力を傾注して議会活動に専念してまいりました。

特に、東日本大震災からの復旧・復興については、東日本大震災対策特別委員会を設置し、

新たなまちづくりが円滑に進められ、加速化が図られるよう行政とともに、連携して取り組んできたところであります。

昨年は、生活・住宅再建では、防災集団移転促進事業の始の団地で住宅建築が進み、災害公営住宅整備事業についても入居が開始され、更には、南三陸病院、総合ケアセンター南三陸、戸倉小学校の竣工など、復旧・復興事業が目に見える形で計画的に進められております。

本年は、新たなまちづくりを連続的かつ継続的に進める震災復興計画の復興期・発展期であり、これまで以上に本格的な復興が実感できる年となることを期待するものであります。

新年を迎えるにあたり、議会といたしましても、復旧・復興の加速化はもとより、町民が安全で安心して暮らせ、若者が夢のもてる活気あるまちづくりを目指し、議員が一致団結して議会活動に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町民皆様の御健勝と御多幸を心からご祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。